**「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点）の推進に関する実践例**

**～実生活における筆者（清少納言）の価値評価の特色を理解する～**

**甲斐清和高等学校　国語科**

**教科名　　古典Ｂ**

単元名　　筆者の感情が、どのような振る舞いや出来事に向けられていたのかを捉え、話し合うことを

通して、現代の私たちの感覚と照らして内容を読み取る【読むこと】

（１）年間指導計画における、取り上げた単元の位置づけ

　２年次「古典Ｂ」の年間指導計画は、１年次「国語総合」で習得した基礎をもとに系統的に学習できるよう配慮して計画を立てている。１学期は、『竹取物語』『伊勢物語』などの平安時代に作られた物語文を中心に、古語の意味や助動詞（活用、識別）について学習してきた。また、中世の男性隠者による『徒然草』『方丈記』も扱ってきたので、古人の生活、価値観が描かれる随筆という文学ジャンルにも馴染みはある。

　一方で、所謂「古典嫌い」「歴史嫌い」の生徒も多く、ただ文章を口語訳するだけの授業展開では行き詰ってしまう感があるのが、本校の長年の課題である。したがって、前述のように、ある程度古典文学の世界観に触れるという土台を作ったうえで、女流随筆の嚆矢である『枕草子』のみずみずしい世界観や鋭い言語感覚に触れさせたいと考えた。また、当時の人々の価値観（特に「人間関係」について述べられた文章）に触れることは、本校の特色でもある道徳教育にも繋げられるのではないかと捉え、積極的に授業で取り扱っている。

**（２）単元の目標**

・重要古語の意味や活用語の用法について理解したうえで、感情を示す微妙な言葉遣いに注意して、描かれている内容を想像しようとする。【関心・意欲・態度】（（１）ア、イ）

・類聚的章段の特徴を理解している。【知識・理解】（（１）エ）

・描かれている内容について、筆者が「かたはらいたし」と批評する理由を考え、それを生徒自身の体験や感性に照らして考察する。【読む能力】（（１）ウ）

**（３）取り上げた言語活動と教材**

**言語活動：**古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。

（（２）ウ）

**教材：**「枕草子　―かたはらいたきもの―」（清少納言）

**（４）単元の見通**し

　導入時の段階で、『枕草子』の形式的な特色、「をかし」という言葉がキーワードとなっていることを伝える。その中でも「かたはらいたきもの」は、「形容詞」＋「もの」型の類聚的章段なので、ある物事や状況に対する筆者の感情（感覚、価値観）を表す表現に注目して読んでいくこと、また、根拠を示しながら、なぜそうした感情を抱くのか説明できるようになることが、単元の最終目標であることも併せて示した。

　そして、文章の内容をふまえたうえで、生徒たちの「かたはらいたい」という感覚にも迫りたいという点も加えた。いずれも口頭で伝え、読解時の整理がしやすくなるようノートの取り方は細かく指導した。古典への苦手意識の強い生徒が多いので、学習活動の多くは４人１組のグループ単位で進めることを重視し、相互に助け合える体制を作り上げるよう配慮している。

**（５）具体的な評価基準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 読む能力 | 知識・理解 |
| 重要古語の意味や活用語の用法について理解したうえで、感情を示す微妙な言葉遣いに注意して、描かれている内容を想像しようとする。 | 描かれている内容について、筆者が「かたはらいたし」と批評する理由を考え、それを生徒自身の体験や感性に照らして考察する。 | 類聚的章段の特徴を理解している。 |

**（６）指導と評価の計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **次** | **具体的な評価基準と評価方法** | **学習活動** |
| **１** | 【評価基準】  類聚的章段の特徴を理解している。  （知識・理解）  【評価方法】  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の確認」 | 「枕草子」の形式的特徴について確認する。  ・教科書や図説を使って、『枕草子』の３つの形式的特徴を整理する。  ・「類聚的章段」には、「名詞」＋「は」型と「形容詞」＋「もの」型があることを確認する。  ・「類聚的章段」の後者は人事に関する内容であることを理解する。  『かたはらいたきもの』を範読する。  ・歴史的かなづかいに気をつけながら音読し、古文特有のリズムを味わう。  教員の音読→教員の後について読む→ペアで音読 |
| **２** | 【評価基準】  重要古語の意味や活用語の用法について理解したうえで、感情を示す微妙な言葉遣いに注意して、描かれている内容を想像しようとする。（関心・意欲・態度）  【評価方法】  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の確認」  「記述の点検」  「記述の分析」 | 重要古語の意味を確認する。  ・古語辞典や単語帳を用いて意味を調べ、本文を視写したノートに書きこむ。  活用語の用法について確認する。  用言（動詞）／助動詞  ・以上についてグループで検討し、発表。また、他者の発表を聞きながら、各自で解答を確認する。  本文を口語訳する。  ・確認した古語の意味や活用語を参考にして、口語訳文をグループで完成させる。 |
| **３** | 【評価基準】  描かれている内容について、筆者が「かたはらいたし」と批評する理由を考え、それを生徒自身の体験や感性に照らして考察する。  （読む能力）  【評価方法】  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の確認」  「記述の点検」  「記述の分析」 | 筆者が「かたはらいたし」と感じる９つの瞬間を確認する。  ・口語訳を参考に、グループで９例をプリントにまとめる。  各例について、筆者が「かたはらいたし」と批評する理由を考察する。  ・グループで８例の背景を３つに大別する。  ・「かたはらいたし」が否定的な評価語であることを、実例に即して理解する。  日常生活で感じた「かたはらいたきもの」相当の話題を発表する。  ・現代の「かたはらいたきもの」の話題を通して、「かたはらいたし」の意味を実感する。  ・グループで１つ例を挙げさせ、その中で最も共感できるものを選んで投票する。 |

**（７）各次の評価基準**

**【第１次】（１時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標（評価基準）** | 類聚的章段の特徴を理解している。 |
| **言語活動** | 古文特有のリズムなどを味わいながら音読や朗読をしたり、類聚的章段の特徴について考えてまとめたりすること。 |
| **教材** | 「かたはらいたきもの」『枕草子』より |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  『枕草子』を構成する章段が、その内容から３つの種類に分類できること、中でも類聚的章段は、ひとつのキーワードやテーマを揚げて、それに当たるものや事例を列挙する形式を持つものであることを理解している。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  類聚的章段の意味が理解できない生徒に対しては、本章段が「かたはらいたきもの」というひとつのテーマを揚げて、筆者が「かたはらいたし」と思っている人の行動や状況を次々にあげていることに注目させる。 |
| **評価方法** | 机間巡視により、音読への取り組み具合（積極的に読もうとしているか、誤った読み方をしていないか）を確認する。 |

**【第２次】（１～２時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標（評価基準）** | 重要古語の意味や活用語の用法について理解したうえで、感情を示す微妙な言葉遣いに注意して、描かれている内容を想像しようとする。 |
| **言語活動** | 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、分かったことを発表すること。 |
| **教材** | 「かたはらいたきもの」『枕草子』より |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  重要古語の意味を理解し、分かりやすく口語訳することができる。活用語（用言、助動詞）の活用が理解できている。そのうえで、筆者が「かたはらいたし」と感じる場面を説明することができる。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  重要古語の意味が理解できていない生徒に対しては、それぞれの場面での意味を書き出させる。活用語の活用は、教科書掲載の活用表を利用するよう指導助言する。 |
| **評価方法** | 机間巡視により、意味調べや活用の問題への取り組み具合、ノートへの記述内容を確認。 |

**【第３次】（３時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標（評価基準）** | 描かれている内容について、筆者が「かたはらいたし」と批評する理由を考え、それを生徒自身の感性や体験に照らして考察する。 |
| **言語活動** | 文章の内容を的確に読み取り、それを発表したりまとめたりすること。 |
| **教材** | 「かたはらいたきもの」『枕草子』より |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  本章段の９つの事例をまとめたうえで、それぞれの状況で生じる感情が、現代ではそれぞれどのようなものに当たるかを説明することができる。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  構成が理解できない生徒に対しては、文末表現に注目させたり、主語を示したりして理解させる。 |
| **評価方法** | グループディスカッションに意欲的に取り組んでいるか確認する。 |

**（８）評価の実際**

**第３次における評価について**（資料①・②）

　まず、教科書ワーク（学習課題集）の「要点の整理」を利用して、筆者が「かたはらいたきもの」として挙げている８例について整理させた。空欄補充形式なので、ほぼ全員が口語訳文を読みながら要点を押さえることができたため、この時点での評価で差をつけることはできなかった。

　その後、筆者が９例を「かたはらいたし」と批評する理由について考察させた。なお、これらの背景は次のように大別できる。

①自分の言動であれば、内省して、気恥ずかしくきまり悪く感じる

②自分とあまり関係のない第三者の言動が苦々しくイライラする

③自分と関係の深い第三者の言動であればきまり悪くハラハラする

それぞれの事例を正しくこの３グループに分類でき、かつ、明確に根拠立てて理由を説明できたグループの生徒をＡ評価とした。また、これらを踏まえて自身の体験や感性に基づき、ユニークな「かたはらいたきもの」を挙げている生徒も高く評価することを心がけた。なお、生徒たちの共感を得た回答としては②に分類できるものが多かったような印象を受ける。

**（９）評価方法の具体例**

問　この文章は、類聚的章段に属し、「かたはらいたきもの」について述べている。

**①**「かたはらいたきもの」の事例は、いくつ取り上げられているか。その数を漢数字で答えなさい。

**Ａ．　　　九**

**②**一つのおもしろからぬ言行があった場合、ア．自分の言動であれば、内省して、気恥ずかしくきまり悪く感じ、イ．自分とあまり関係のない第三者の言動が苦々しくイライラし、ウ．自分と関係の深い第三者の言動であればきまり悪くハラハラするものである。次の各文は、ア～ウのいずれに該当するか。それぞれ適切なものを選び、記号で答えなさい。

**Ⅰ**　よくも音弾きとどめぬ琴を、よくも調べで、心の限り弾きたてたる。

**Ⅱ**　客人などに会ひてもの言ふに、奥の方にうちとけ言など言ふを、えは制せで聞く心地。

**Ⅲ**　思ふ人のいたく酔ひて、同じことしたる。

**Ⅳ**　聞たりけるを知らで、人のうへ言ひたる。

**Ⅴ**　才ある人の前にて、才なき人の、ものおぼえ声に人の名など言ひたる。

**Ａ．　Ⅰ　イ　　Ⅱ　ウ　　Ⅲ　ウ　　Ⅳ　ア　　Ⅴ　イ**

**③**次の文に書かれているようなことは、現代の社会でもよく見かける。このような状態は、今日どのような言葉で表現されているか。三字で答えなさい。

にくげなるちごを、おのが心地のかなしきままに、うつくしみ、かなしがり、これが声のままに、言ひたることなど語りたる。

**Ａ．　　　親バカ**

いずれも、第３次で学習した本文の構成、筆者の感情を的確に捉えられていることが確認できる問題を出題し、評価に加えた。中でも③は、およそ1000年前を生きた筆者の感性を生徒たちが各自のそれに照らして考察できているかを測ることのできる設問であろう。

**（１０）振り返り**

　重要古語の意味や文法事項については、補助教材プリント（資料③）で必須事項を確認させた。また、本文の内容についても、定期試験対策プリント（資料④）を配布、生徒たちが抱える記述問題への苦手意識を克服できるよう努めた。

**（１１）生徒に課す学習課題**

各次において、以下の課題を課した。第１次の課題以外は提出させ、実施状況を点検した。

**◆第１次**：本文の視写（予習）

**◆第２次**：単語の意味・活用語の活用法について、授業中に調べ終わらなかった部分を調べる

教科書ワーク（学習課題集）の「語句・文法」欄、補助教材プリントに取り組ませる。

**◆第３次**：教科書ワーク（学習課題集）の「内容の理解」欄に取り組ませる。

**（１２）取組を振り返って**

**【成果の上がった点とその要因】**

・４人１組でのグループによって学習活動を展開していくことを、見通しとして持たせた効果はあったように思う。１年次より異なるクラス（音楽科・普通科進学コース）で合併授業をしているという背景もあるかもしれないが、メンバーをランダムでシャッフルしても混乱なく、相互に助け合える体制が作れた。

・授業者は逐語訳せず、莫大な情報の中から必要なものを取捨選択するためのノウハウを伝授することに努め、生徒自らで口語訳を完成させる形式の授業展開は、ともすると計画通りに進まない（思った以上に時間がかかる）という懸念もあるが、内容の理解度といった面では成果が出たように思う。やはり、自発的に課題へ向き合う姿勢を育てることが大切であると感じた。

・これまでは、授業終了後（単元終了時点）にノートを提出させ、口語訳文や文法事項の確認の様子を点検、評価していた。しかし、それはたいへん煩瑣な方法であることから、グループ間で確認させる方式に変更した。

最終的には授業者が点検、評価するのは従来通りだが、効率的な授業展開、生徒間の相互理解といった面では効率的にも良くなったと思う。

・古典文学を自分たちから遠い世界の存在と捉えている生徒たちにとって、筆者の感性やその背景に迫りながら内容を読み進めていく体験は新鮮だったようだ。「こういう授業なら、古典もおもしろく感じる」という生徒の意見が印象的だった。取り扱う教材を選択する時点で、道徳教育や生徒の感性を揺さぶる活動にリンクできる教材をチョイスする重要性を実感した。

**【課題とその原因、課題に対する改善案】**

・今回の授業では幸いにもメンバーに恵まれ、グループによる学習活動が円滑に行われたが、構成メンバーによっては、同様な取り組みが可能かどうかという懸念はある。メンバーの顔ぶれによっては、グループによる学習活動を行う時期、メンバーの構成方法などを検討する必要があると感じた。

・グループ活動を評価する際、どうしてもその中で目立つ生徒を評価しがちになる。メンバー内で主導権を握っていたり、活発に発言したりしている生徒に目が行く。しかし、大人しくてもコツコツと取り組んでいる生徒もいるので、「意欲」の面を評価する際の基準が必要だと感じた。

・多くの生徒が自発的に古典の学習に取り組めるようになったものの、依然として生徒たちの古典への苦手意識は根強い。一方で、大学入試に向け、学習内容はさらに深く難解なものになっていく。そこで、現代を生きる生徒たちが古典文学を実生活の中で実感しながら、主体的に学ぶ姿勢を作るにはどうすれば良いのか。答えはなかなか出てきません。